

聖霊シリーズ「聖霊の賜物を受ける」

1A すべての人

2A 「賜物」

1B 報酬とは異なる道

2B サタンによる罪定め

1C 自分についての知識

2C 願わない過ち

3B 「受ける」もの

3A 聖霊を求める

1B 自由意志を侵さない神

2B 御心にかなう願い

3B 約束を信じる

4A 信仰による感謝

本文

聖霊シリーズ、最後になります。今晚は、「聖霊の賜物を受ける」ことについて学びます。

1A すべての人

使徒の働き 2 章 38-39 節を読みましょう。「使徒 2:38-39 そこでペテロは彼らに答えた。「悔い改めなさい。そして、それぞれ罪を赦していただくために、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けるでしょう。なぜなら、この約束は、あなたがたと、その子どもたち、ならびにすべての遠くにいる人々、すなわち、私たちの神である主がお召しになる人々に与えられているからです。」

このペテロの言葉は、使徒たちが五旬節の時に、屋上の間に一つになって祈り、聖霊を受けた時に語られたものです。聖霊が炎の下のように降りて来られ、それぞれが聖霊に満たされ、外国の言葉を語りました。激しい風が吹いたので、五旬節のために世界中から集まって来ていたユダヤ人たちが聞きつけてやってきましたが、自分の地方の言葉で神を賛美している姿を見て、驚き呆れました。それで、誰かが「ぶどう酒に酔っているのだろう。」とあざけたので、ペテロたちは、「朝の 9 時ですから、そうではありません。」と答えました。そして、こう言いました。「2:16-17 これは、預言者ヨエルによって語られた事です。『神は言われる。終わりの日に、わたしの霊をすべての人に注ぐ。すると、あなたがたの息子や娘は預言し、青年は幻を見、老人は夢を見る。』そして、ペテロは主イエスのことを伝えました。十字架に付けられたけれども、神はこの方をキリストとするためによみがえらせた。しかし、あなたがたが十字架に付けたのです、とはっきりと宣べました。

そこで彼らの心が刺されました。「私たちはどうすればよいですか。」と尋ねると、それに答えたのが彼の言葉です。罪の赦しを得るために悔い改めなさい、そして主イエスの御名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物としての聖霊を受けましょう。そして大事なものは、この約束が、そこにいる人々だけでなく、その子孫、並びに遠くにいる人々、神である主がお召しになる人々であれば、与えられると言ったことです。つまり、この約束はすべての人に与えられているものです。ヨエルの預言において、「わたしの霊をすべての人に注ぐ。」とありましたが、ペテロはそれに忠実に語ったのです。

私たちは、すでにこの体験が、新生体験とは別個のものであることを学びました。聖霊に拠らなければ、だれもイエスを主と言うことはできません。しかし、イエス様はご自身を主としている者たちに対して、聖霊のバプテスマを与えると約束されました。イエスを信じる者には、神は聖霊を与えてくださり、その内に住んでくださるようにして下さいます。しかし、それとはまた別です。なぜなら、聖霊が上から臨まれる、そして力を受けると、イエスの証人となるというのが約束です。聖霊が内に住まわれることについては、私たちは内において、主イエスの栄光を見ることができます。しかし、弟子たちにイエス様はすべての国民を弟子としなさいという命令を与えられました。その使命を果たすためには、絶対に聖霊の力が必要です。ですから、新生以上の体験です。

イエス様は、また別の祭り、仮庵の祭りの時にその終わりの日に立ち上がられました。「さて、祭りの終わりの大いなる日に、イエスは立って、大声で言われた。「ヨハネ 7:37-39 だれでも渴いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになる。」これは、イエスを信じる者が後になってから受ける御霊のことを言われたのである。イエスはまだ栄光を受けておられなかったので、御霊はまだ注がれていなかったからである。」仮庵の祭りの七日間は、祭司たちが神殿からシロアムの池まで下がり、そこで水がめに水を入れ、都に上って行進します。そして、神殿のところで水を流します。それは、荒野の旅において主が水を岩から流し出し、彼らに備えを与えてくださったことを思い出すためです。けれども八日目は、何もしません。それは約束の地に既に神が導き入れてくださったことを記念するからです。しかし主は言われたのです。そのような祭りを行っても、その実体であられるイエス・キリストご自身に拠らなければ、まことの水を得ることはできない、ということ。

それで主は、「その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになる。」と言われました。聖書に言っているとおり、とありますが、これは腹から、と訳したほうが正確です。私たちの心はまだ表面的です。腹から感じる、その深い部分です。そして水が流れ出るようになる、というところは、荒野において鉄砲水のように勢いよく流れ出るということです。イザヤ書に、終わりの日に荒野に川が流れる預言があります(44:3)。しかし今でも、冬にわずかに雨が砂漠に降りますが、その時は鉄砲水のように涸れた川に流れてくるのです。イエス様はそのことを言われています。私たちの腹から、鉄砲水のように聖霊が流れ溢れてくださいます。

したがって私たちは、聖霊について三つの関係を持っています。一つは、聖霊が私たちと共におられるということです。これはちょうど、コップの横に、水が置かれている状態です。まだ自分の内に水が注がれていません。けれども、聖霊が自分に罪を示してください。そしてその罪をキリストが十字架で負ってくださったことを示されます。そしてイエス様を自分の主として、救い主として心に受け入れます。すると、水が内に注がれます。これが、聖霊が内におられる関係です。主イエスが私の内におられるので、そこに平安と喜びがあります。愛が注がれました。けれども、聖霊はそれだけで留まりません。さらにさらに、私たちを満たして下さり、溢れださせて下さるのです。その溢れださせる関係が、「生ける水があなたの腹から流れ出る」ということです。自分が喜んでいだけでなく、その喜びによって周囲の人がイエス様を知ることができます。自分が福音の真理を知っているだけでなく、周囲の人がイエス様の真理を知ようになります。自分の内だけでなく、自分を通して主が働いて下さる、主が成し遂げて下さる客観的な業です。主が、「あなたがたがわたしの証人となります。」というのはそういうことであり、そしてすべての国民を弟子としなさい、というのもそういうことです。

2A 「賜物」

1B 報酬とは異なる道

ですから、私たち全てが聖霊を受けることができるし、受けなければいけません。そこで今晚、ご指摘したい点は、聖霊は「賜物」だということです。賜物、つまり贈り物です。一方的に与えられるものです。何か獲得するために一定の基準を満たさなければいけないのであれば、それは既に賜物ではありません。救いについて、「それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。行ないによるものではありません。だれも誇ることのないためです。(エペソ 2:8-9)」とあるとおりに、聖霊を受けることについても同じです。ですから、ある一定の聖さの基準に達したら受けるものではないのです。今、信じたばかりの人が聖霊を受けることもありますし、数年後経って受ける人もいることでしょう。百人隊長コルネリオとその家族は、ペテロの福音の言葉を聞いて、信じて、まだ水のバプテスマを受けていなかったのに、聖霊のバプテスマを受けました。聖められることについては、それはそれで主が内なる働きとして行われます。けれども、それが条件で聖霊のバプテスマを受けるものではありません。

2B サタンによる罪定め

1C 自分についての知識

なぜ、このことを強調しなければいけないかというと、聖霊が賜物であり、それは恵みであることを、サタンがその真理を覆い隠してしまうからです。自分の至らなさを見てしまうように、仕向けるのです。自分は神の賜物を受けるのに十分ではないと責めます。多くの人がそのサタンによる痛めつけで苦しんでいます。神の恵みではなく、自分を見させてしまうのです。そしてサタンの言っていることは強力で、その失敗や欠点、罪を的確に指摘します。そして、「あなたは神の恵みを受けるのに値しない人間なのだ。神はあなたをそんなふうに聖霊で満たすようには、願っておられない。」と、徹底して自分自身を見つめるように仕向けるのです。そして神の恵みに近づくことをさせ

ないようにしています。

確かに、自分自身を見つめることほど、痛々しいことはありません。エレミヤ書にも、「17:9 人の心は何よりも陰険で、それは直らない。だれが、それを知ることができよう。」とあります。自分の欺きはあまりにも深く、それを知ることさえできないのだと言っています。しかし、主がその心を探ることができます。ダビデは、「神よ。私を探り、私の心を知ってください。私を調べ、私の思い煩いを知ってください。(詩篇 139:23)」と言いました。私についての知識は、最も痛々しいものです。自分は欺く者で、本当の自分よりも良く見えています。だから、聖書では「欺かれてはなりません」と書いています。その知識を得るならば、最も痛みを伴う知識となるでしょう。

2C 願わない過ち

ですから、サタンの告発を聞くようなものなら、多くの間違いを見つけることができます。それでもキリストがおられる、そこに裂かれた肉、流された血があります。それで傷ついた自分をすべて受け入れる神を知り、心の癒しを受けるのです。ところが、サタンは十字架を見せないで、「お前は、神の祝福を受けるに値しない。」と言い含めるのです。それは、非常に巧妙で、もっともらしく見せ、どうしてもその声に聞いてしまうのです。そして、次のことをしてしまいます。「あなたがたのものにならないのは、あなたがたが願わないからです。(ヤコブ 4:2)」願っていないから、自分のものになっていないということです。とても単純です。サタンが自分の欠点や弱さを責め立てるので、自分が願いもしないところまでいじめます。でも、願うことです。

3B 「受ける」もの

聖霊の賜物は、受けるものであり、自分で獲得するものではありません。イエス様は弟子たちに、「聖霊を受けなさい」と命じられました。先ほど読んだヨハネ 7 章の生ける水の川についても、「イエスを信じる者が後になってから受ける御霊のこと」とありました。そしてサマリヤで多くの人がイエス様を信じ、水のバプテスマを受けましたが、それで、ペテロとヨハネがそこに行って、「人々が聖霊を受けるように祈った(使徒 8:15)」と書いてあります。

3A 聖霊を求める

1B 自由意志を侵さない神

そこで私たちが知る必要があるのは、聖霊を求めることです。願い求めることです。イエス様は言われました。「ルカ 11:13 してみると、あなたがたも、悪い者ではあっても、自分の子どもには良い物を与えることを知っているのです。とすれば、なおのこと、天の父が、求める人たちに、どうして聖霊を下さらないことがありましょう。」神は、私たちが望まないものを無理強いされることはない、ということを知る必要があります。神は私たちの自由意志を尊重されます。

主は言われました。「求めなさい。そうすれば与えられます。捜しなさい。そうすれば見つかります。たたきなさい。そうすれば開かれます。(マタイ 7:7)」積極的に、率先して求めます。そして主

は、わたしは与えましよう約束してくださっています。「ヨハネ 14:13 またわたしは、あなたがたがわたしの名によって求めることは何でも、それをしましよ。父が子によって栄光をお受けになるためです。」そして、私たちが求めるものだけでなく、それ以上に施すことのできる方です。「エペソ 3:20 どうか、私たちのうちに働く力によって、私たちの願うところ、思うところのすべてを越えて豊かに施すことのできる方に、」

2B 御心にかなう願い

ですから、私たちは大胆に願いたいのです。そして、その願ったものはかなえられると信じるじちなで神は求めておられます。「ヤコブ 1:6 ただし、少しも疑わずに、信じて願いなさい。疑う人は、風に吹かれて揺れ動く、海の大波のようです。」もう一つ、願う時に私たちが大胆になることを躊躇させるのは、「御心になかったことなのか」ということでもあります。御心を第一に求めないで願い求めることほど、愚かなことはありません。なぜなら、神の御心が私たちにとっての最善だからです。ですから私たちの祈りの中で聞かれない願いがあれば、それは幸いとしなければいけません。もし聞かれていたら、その後にとんでもないことが起こっていた、ということがあります。主がご自身の知恵と思慮深さによって、自分の願ったものを与えられなかったということがあります。

ですから、使徒ヨハネは第一の手紙でこう言いました。「1ヨハネ 5:14 何事でも神のみこころにかなう願いをするなら、神はその願いを聞いてくださるといこと、これこそ神に対する私たちの確信です。」御心になかった祈りをしていれば、それは必ず聞いてくださっています。その通りになります。ですから、ここで尋ねます。「聖霊を受けることは、御心になかったことですか、そうでないですか？」もちろん、答えは御心になかったことです。これまで御言葉を読んできましたが、父なる神が私たちに賜物として聖霊を与えたいという強い意図を持っていることは明らかです。ですから、私たちは神の御心であることを知っているのので、疑わずに確信をもって願うことができます。

3B 約束を信じる

そして次に、聖霊の賜物が約束を信じる信仰によって与えられるということにも、注目したいと思います。「ヘブル 11:1 信仰は望んでいる事がらを保証し、目に見えないものを確信させるものです。」私たちが祈り、願い求める時に妨げになるもう一つものは、しるしを求めることです。何か超自然的な現象を期待するとがっかりしてしまいます。けれども、恍惚状態など、何かの現象を求めていて、そこに信仰がないので、いつまでもその約束を手に入れられていないということが起こります。ただ信仰によって受け取ることは、とても難しいことです。トマスのことを思い出してください、「私は、その手に釘の跡を見、私の指を釘のところに差し入れ、また私の手をそのわきに差し入れてみなければ、決して信じません。(ヨハネ 20:25)」そしてイエス様が現れて、「このわきに手を差し入れなさい、指を釘のところに差し入れなさい。」と言われ、トマスが「私の主。私の神。」と言いました。そして、「あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ずに信じるものは幸いです。(20:29)」と言われました。私たちは、しるしを求めている時、何か超自然的な現象を求めているなら、「それらを見ずに信じる者は幸いです。」というイエス様の言葉があるのです。

4A 信仰による感謝

私たちは、ただ聖霊の賜物を与えるという神の約束を信じて、聖霊を求めて、願い、そして受け取って信じるのです。そして、受け取った人々はいろいろなしるしを見ます。私たちが初めにこのシリーズを学んだ時に、アメリカで霊的覚醒が起こった時、用いられた説教者でチャールズ・フィニーがいましたが、彼は、液体のような愛が波のように押し寄せて、「神よ、私はこれ以上、受け取ることができません。どうかやめてください。」と叫んだというのを読みました。また、異言のしるしも伴っているのを私たちは使徒行伝で読みます。しかし、よく読むと、異言の伴うしるしは、必ずしもすべての聖霊のバプテスマにおいて確認できるわけではありません。そうしたしるしが伴いますが、それを期待して聖霊を受けるのではないのです。

実は、すでに聖霊に満たされ、聖霊に導かれているのに、気づかなかったということさえあります。救いの証しにおいても、受け入れた時には「ええ、それだけなんですか？」と思っていたところが、後でどんどん救われたことが確信できるようになってきた、ということがあられるでしょう。聖霊の満たしもそのような時があります。今でさえ、これは聖霊の働きだと思えることができても、当時は、自分のお馬鹿な失敗だったり、回り道だったり、そうした何でもないことだったのかもしれない。ところが、そのお馬鹿なことをやったなかで、それを通して人が救いに導かれたとか、祈りが必要な人がそこにいたとか、そういった証しがあるのです。良きサマリア人の話にあるように、律法を守るのに集中して、半殺しになった人のところを横切ったように、私たちも日頃のしなければいけないことばかりを考えていて、実は聖霊が語られているのに、その当たり前のことを行なわないで過ごしているということがあります。知恵が必要です、柔軟性が必要です。必ずしも、自分の考えているように聖霊の導きがある訳ではないのです。自分にとっては、これは失敗だ、これは何でもないことだと思われることさえ、それが聖霊の導きだったりするのです。このことを知ると、わくわくします。主がなされていることを喜べます。

けれども、こうしたしるしではなく、やはり御言葉に書かれている聖霊の賜物の約束を信じるということが大事です。パウロが、ガラテヤ人たちに、「ガラテヤ 3:2 あなたがたが御霊を受けたのは、律法を行なったからですか。それとも信仰をもって聞いたからですか。」何かを行なって御霊を獲得したのではなく、信仰をもって聞いたから御霊を受けました。そして、信じて受け入れるのです。そして、信じて疑わないのです。このすばらしい聖霊の賜物について神に感謝すればよいのです。そして、感謝している中で確かに神の約束、つまり聖霊の賜物が与えられて、その御霊が自分を通して現われていることを知ります。神の力を経験できます。ですから、願いましょう、祈りましょう、求めましょう、そして受け取って信じましょう。